

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（税務専門課程税務・徴収コース第21期）

大阪府 北井 誠

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

【はじめに】

滞納整理を担う徴税吏員には、常に自らの知識をアップデートすることが求められます。かつて非常に有効な徴収手段であった「電話加入権の差押」は、携帯電話の普及とともに、ほとんど例を見なくなりました。一方、近年では「暗号資産」や「キャッシュレス決済」、「クラウドソーシング」など、これまでになかった財産や経済取引、労働形態が次々と登場し、全国の徴税吏員たちは「どうすれば差押できるだろう」と日々頭を悩ませていることと思います。

このような徴税吏員特有の悩みの解決にあたっては、自治大学校（税務専門課程税務・徴収コース）が非常に役立ちます。私も令和5年度研修生として当研修に参加しましたので、その内容を紹介させていただきます。



（校舎は東京都立川市内の閑静な地域に立地している。）

【研修内容】

当研修は、およそ1ヶ月間にわたる宿泊研修として実施されます。経験豊富な講師陣のもと、座学やグループ演習、ロールプレイングなど様々な課目により、徴税吏員に求められる知識を徹底的に学習していきます。

何より特筆すべき点は、日常業務から離れて、研修に没頭できることです。普段の自主学習やOJT研修では、多くの場合は目の前に差し迫った問題があることから、どうしても最短ルートで答えを求めてしまいがちです。この点、当研修では各論点についての背景や制度趣旨、さらには派生する論点についてまで、たっぷりと時間をかけて学ぶため、深く幅広い知識を身につけることができます。

また、疑問点があればその場で講師に質問できる点も大きな魅力です。滞納整理では事案ごとに多種多様な課題が生じるため、解説書等を参照するだけでは、痒いところに手が届かないことが多くあります。当研修では、休憩時間のたびに講師の前に行列ができ、各々が日頃から抱えていた疑問点等について講師の見解を確認する光景がよく見受けられました。

【研修生間の交流】

研修時間外における研修生間の交流は、宿泊研修の利点を最大限に活かしたものであると言えるでしょう。寄宿舍には交流スペースである「談話室」が整備されており、毎晩ここで活発な議論が行われていました。

それぞれが地元から持ち寄った名産品や地酒に舌鼓を打ちながら、税務はもちろん、あらゆる内容について夜更けまで語り合いました。

冒頭でも述べたように、徴税吏員には、社会の変化に対応できるよう自らの知識をアップデートし続けることが求められており、これを実現する上では、自治体間で先進事例等を共有することが非常に有用です。令和5年度は58名の研修生が自治大学校に集い、つまりはそれだけの知識、経験、先進事例等がこの場で共有されていました。談話室での交流が研修生たちにとって極めて大きな財産になったということは、言うまでもありません。



(談話室の様子。毎晩ここに自然と人が集まり、様々な議論が行われた。)

【寄宿舍での生活】

寄宿舍には1人ずつ個室が用意されており、インターネット接続が可能なノートPCが貸与されます。談話室内にはフリーWiFiも整備されているので、自室で勉強に打ち込むもよし、談話室で家族とテレビ電話するもよし、それぞれの都合に合わせて不自由なく生活を行うことができます。

洗濯機や冷蔵庫、自室内のユニットバスや週3回使える大浴場など、生活に必要な

家電製品や設備についても、ひとつおとり整備されています。また、トレーニングジムやグラウンド、テニスコートなども無料で利用できるため、長い研修生活の中であっても、運動不足になることはありませんでした。

学校周辺には徒歩数分でコンビニ、15分程度で大規模商業施設があるため、日用品の購入に困ることもありませんでした。他の研修生と買い物に出かけるのも、研修の楽しみの1つでした。

【おわりに】

自治大学校を卒業してから早2ヶ月が経過しましたが、研修生間で立ち上げた連絡網では、今でも活発に情報交換がなされています。ある自治体が馴染みのない「源泉権」について投げかけると、温泉地で有名な自治体からすぐに回答がある…というように、全国に広がる人脈が卒業後にも大きな力になっています。

最後になりましたが、当研修に関わられた皆様へ感謝を申し上げますとともに、当研修への参加を検討されている方には、これを全力で推薦させていただきたいと思えます。1人でも多くの方が自治大学校の門を叩き、良き経験、そして良き仲間を得ていただくことを心から願っています。